

ほほえみの



かけはし

題字：赤木院長白筆

第4号 平成24年4月発行

玉名地域保健医療センター 広報誌

発行：玉名地域保健医療センター広報編集委員会

所在地：熊本県玉名市玉名2172

電話：0968-72-5111 (代表)
0968-76-7066 (医療連携室)

ホームページ：<http://www.tamana-medical.com>

新年度所感

～平成24年度 玉名地域保健医療センターの取り組みについて～

院長 赤木 純児



平成22から23年度にかけて、設備投資(MRI、オータリング、骨密度測定装置など)と人的投資(内科医師の確保、看護師の確保、パラメディカルスタッフの充実など)を行ってきました。講わば、病院の基礎固めをした段階であったと思っています。このため、平成23年度は1億円あまりの損益赤字となりましたが、今年度は、基礎固めから、飛躍の年にしていきたいと考えております。

昨年度の初頭に目標としたのは、10:1の導入と、一日一人当たりの診療点数3000点以上、入院患者数の増加でした。10:1に関しては現在申請中で、今年度4月から導入できる見込みです。これが導入されれば、1日一人当たりの診療点数3000点も視野に広がってくると考えています。これらにより、本年度はかなりの収支の改善が見込まれると期待しています。

病院の大きな基本方針は、(1) 医師会のバックアップ病院としての機能を維持し、さらに充実していくことと、(2) 当院が開院当時より得意とする消化器疾患の診断・治療を維持・充実させることの2点です。

これとは別に4つのあらたな取り組みを考えています。

(1) 在宅医療への取り組み：現在すでに活動している、玉名在宅ネットワーク(安成先生主宰)と連携を組んで在宅支援病院として有明地区の在宅医療をバックアップしていきたいと考えています。

(2) 救急医療：医療センターは開設以来27年間、二次救急的役割を果たしてきています(救急車搬入台数年間約100件、医師会の先生方からの紹介患者はほとんどが入院を必要とする救急の患者で年間入院数は少なく見積もっても1200人/年)。しかし、有明医療圏では医療センターが有明地区の二次救急の一翼を担っているという認識に乏しく、ともすると医師会の先生方の中にもそういう認識が低い状態となっていました。昨

年度から有明保健所や医師会に、医療センターが開設当時より二次救急を扱っており、二次救急告示病院と何ら遜色のない病院であることを認識してもらうことに努力して参りました。その甲斐あって、有明保健所や医師会の先生方にも理解いただきつつある状態となっております。将来的には、救急告示病院を目指していきたいと考えております。

(3) 整形・リハビリ：本年7月より整形外科ドクターが赴任する予定であり、4月より言語聴覚士も赴任しました。整形外科的な領域と、言語聴覚士を含めたりハビリテーションを、充実させていきたいと考えています。

(4) がん治療：現在、当院でも内視鏡治療や手術療法、化学療法などがんの三大治療を行っていますが、その一方で三大治療から見放され治療法を失ったがん患者が同等数存在していると想定されます。そういう患者にも治療の選択肢を示すことができるように、第4のがん治療と云われている、免疫治療を東京のリンフォテック(白山通りクリニック)と連携して当院でも行えるように致しました。また、温熱療法の導入も現在検討しているところです。将来的には、がん緩和ケアにも力を入れて、一連のがん治療を当院で行えるようにしていきたいと考えております。

年頭にあたって、いろいろ考えている計画などを述べさせて頂きましたが、これを成功させるかどうかは、医師会の先生方はもちろんのこと、有明地区の医療関係者の方々のご協力なくしては実現できないことと感じております。今後も、医療センターの発展のためにご尽力いただきますようによろしくお願ひ申し上げます。



医局スタッフ紹介

(新入医師)



氏名：佐藤 伸隆
さとう のぶたか



職名：消化器外科医長
専門領域：消化器外科

略歴

昭和50年11月2日生 36歳 熊本市湖東
平成15年 3月 福岡大学医学部卒業
平成15年 5月 熊本大学医学部附属病院
第2外科入局
平成16年 7月 荒尾市民病院 外科 勤務
平成18年 4月 国立病院機構
熊本医療センター 外科 勤務
平成19年 4月 熊本大学付属病院 勤務
平成22年 7月 公立多良木病院外科 勤務
平成22年10月 熊本中央病院 勤務
平成24年 4月 玉名地域保健医療センター 勤務

…ひとこと…

消化器外科医長を拝命いたしました。
身の引き締まる思いです。鏡視下手術に取り
組んできました。よい適応の症例がありましたらご
紹介よろしくお願いします。
どうぞよろしくお願い申し上げます。

氏名：泉 良寛
いずみ よしひろ



職名：消化器内科医
専門領域：消化器内科

略歴

昭和54年12月13日生 32歳 熊本市千葉城町
平成17年 3月 福岡大学医学部卒業
平成17年 4月 熊本大学医学部附属病院
研修医
平成19年 4月 熊本大学医学部付属病院
消化器内科入局
平成20年 4月 水俣市立総合医療センター
消化器内科 勤務
平成22年 4月 熊本赤十字病院 消化器内科 勤務
平成24年 4月 玉名地域保健医療センター 勤務

…ひとこと…

昨年は、泉(兄)が大変お世話になりました。
ご迷惑おかけするかもしれませんが、精一杯頑張
りますので宜しくお願いします。

学会発表



1. 第49回日本癌治療学会学術集会

2011.10.29

「CD57NKT細胞はn2～リンパ節転移陽性胃癌症例での予後予測に有用」：外科 赤木 純児

2. 第295回日本内科学会九州地方会

2011.11.20

「軸椎歯突起の剥離骨折が原因と思われる脳脊髄液減少症の1例」：内科 井手 正美

3. 第98回日本消化器病学会九州支部例会 第92回日本消化器内視鏡学会九州支部例会

2011.11.28

「Capecitabine・Oxaliplatin・Bevacizumab
併用術前化学放射線療法が著効した局所進行直腸癌の1例」：外科 鈴木 俊二

4. 日本医療マネジメント学会 第14回熊本支部学術集会

2012.3.10

「インターフェロン治療における看護師の指導の確立
－クリニカルパスを作成しての効果－」：内科病棟看護師 田尻めぐみ

免疫療法に関して

現在、がんの三大治療といわれている、手術、抗癌剤治療、放射線治療で効果が見いだせなくなった患者さんは、まだ癌と戦える体力があるにも拘らず、緩和治療に回されるという現状があります。この三大治療から見放されて、しかし緩和治療に行くにはまだ早過ぎる患者さんを所謂がん難民と称しており、現在がん患者の53%、68万人ががん難民となっているといわれています。現在3人に1人ががんといわれていますが、将来的には2人に1人の時代がくるといわれていますので、さらにがん難民の患者が増加するものと考えられます。

こういうがん難民を救う第4の治療法として、現在免疫治療が有望視されています。私も、1992-1995年まで米国のNIH (NCI 米国国立癌研究所) に留学して腫瘍免疫を学びました。帰国してからは、熊本大学第二外科(現消化器外科)において養子免疫療法(がん患者からリンパ球を採取してこれを体外で刺激増殖させて患者に返還する治療)を行って



て養子免疫療法(がん患者からリンパ球を採取してこれを体外で刺激増殖させて患者に返還する治療)を行って

参りました。今回、東京のリンフォテック(白山通りクリニック)と連携して、当医療センターでも活性化自己リンパ球療法を行うことができるようになりました。免疫力が低下した状態では、抗癌剤治療も放射線治療も効果を発揮できないこと、また手術して術後に抗癌剤治療などを行って完全にがん細胞を切除できたようにみえた場合でも、その後免疫監視機構が働かなければ長生きができないことが報告されており、このことは、免疫機能を保つことがすべての癌治療の基本であることを示唆しています。そういう意味では、免疫治療はがん治療中何らかの形で継続すべきものであると考えられます。

我々は、術後の再発防止を希望される方や三大治療から見放されたがん難民の方々に、三大治療以外の選択肢を提供できるようになったことを嬉しく感じております。こういう患者さんたちに今後も有効な治療法を提供できるように努力精進していきたいと考えております。

担当医 赤木 純児



平成24年度 玉名地域保健医療センター等新入職員研修会

医療連携室主任 野満 博士

今年度採用の22名の新入職員を対象とし、4月4日(水)に新入職員研修会をおこないました。赤木院長の挨拶のあと、吉田事務長から玉名郡市医師会の組織や事業・業務等についての説明があり、各部署の責任者からはそれぞれの部署の紹介がありました。

また、委員会活動を知るために経営改善委員会の様子を見学しました。最後に医療センター内や医師会館、たまきな荘を見学し、満開の桜の下、全員で写真を撮りました。



初めての試みでしたが、医師会や医療センターへの理解ができたのではないかと思います。出席した職員からは、「初心を忘れることなく仕事に励んでいきます。」との力強い言葉がありました。会員の皆様どうぞよろしくお願い致します。

外来医師担当表

	月	火	水	木	金	土
外科外来(午前・午後)	赤木純児	佐藤伸隆	大学	岡本喜雄	鈴木俊二	当直医 (※3)
内科外来(午前)	本田秀和	前田圭介	山崎邦雄	前田圭介	山崎邦雄	
内科外来(午後)	本田秀和	前田圭介	山崎邦雄 本田秀和	前田圭介	山崎邦雄 本田秀和	
消化器科外来(午前・午後)	前田誠士	田代奈津己	(担当医)	前田誠士	泉 良寛	
神経内科		井手正美		井手正美		
循環器科外来(午前)	大学		海賀千弘	大学	海賀千弘	
泌尿器科外来(午後)				担当医(大学)		
消化管内視鏡	泉 良寛 田代奈津己	前田誠士 泉 良寛 佐藤伸隆	本田秀和 前田圭介 泉 良寛 田代奈津己	泉 良寛 田代奈津己	前田誠士 田代奈津己	
腹部エコー	田代奈津己	前田誠士	佐藤伸隆	泉 良寛 本田秀和	前田誠士	
内科回診		総回診(※1)				
外科回診	担当医	総回診(※1)	担当医	担当医	担当医	
消化器科回診		総回診(※1)			消化器科医師	
内科カンファレンス(13:30~)	担当医(※2)					
内視鏡カンファレンス(16:30~)					担当医(※2)	
健診(午前)	大林育生 (内科医)	神谷清二 鹿井聖子	大林育生 狐塚絵美子	大林育生 狐塚絵美子	大林育生 岡本喜雄	
健診(午後)		神谷清二	狐塚絵美子	狐塚絵美子	岡本喜雄	
臨時健診担当医	前田圭介	本田秀和	本田秀和	山崎邦雄	本田秀和	
たまきな荘	岡本喜雄 井手正美	岡本喜雄			岡本喜雄	

※1 内科系医師、外科系医師合同総回診(8:30~9:30)

※2 担当医師、担当技師、担当看護師にて行います。

※3 土曜日の診療(8:30~12:30)は大学による当直医が行います。

玉名地域保健医療センターの 理念と基本方針

理念

玉名地域のかかりつけ医と密に連携し、地域住民のため、安心・安全で良質な医療を提供します。

基本方針

1. 医師会の共同利用施設として、医師会員と密に連携し、効率的な医療を提供します。
2. 日常業務を誠実にやり、迅速な対応と業務改善を常に心がけ、診療体制の充実に努めます。
3. 医療機器、設備を充実・整備し、良質な医療を提供します。
4. 学童検診、各種健診、人間ドック等を行い、地域の保健活動に寄与します。



編集後記

ようやく長い冬も終わり、桜も終わり、木々の新芽が芽吹く頃になりました。

各部署に職員の数も増え、院内の見た目もゴチャゴチャすると思いましたが、5S活動の成果で、院内がシンプルに観えて清潔感も感じてきました。小さなことから改善し、働きやすい環境を、患者さまを持って成す環境を創りながら、医療センターが繁栄するように頑張りたいと思いますのでよろしくお願いします。



編集委員 西崎

